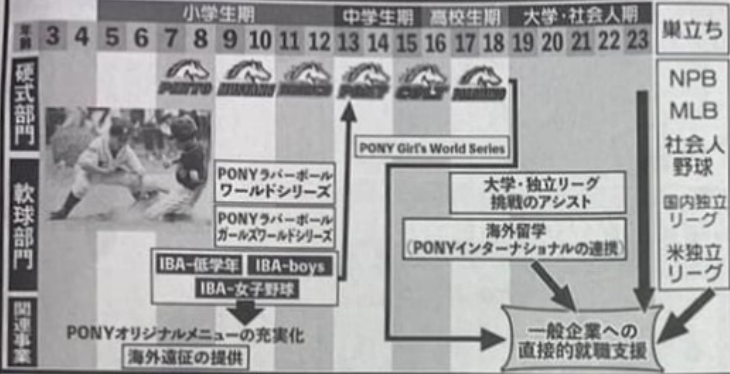


# 野球少年の成長見守る 4本柱

## PONY育成メソッド～世界を目指す人材育成～



**④ 受動喫煙対策について**  
「スーパーポニーアクション2020」でも指導者、保護者、関係者の徹底した分業、実施場所の確立に取り組んできた。来年度からは協会と連盟が主催・共催による大会の会場敷地内での完全禁煙を指導する。

**③ 就職支援制度の導入**  
「一生懸命野球を続けても、野球選手になれなかったら…」「将来のことが不安で野球が続けられない」「就職のことを考えると、野球留学などを決断できない」と。無心に白球を追い続けてきた野球少年たちも、中2、中3になると進路のこと、将来を考えなければいけなくなる。「勉強が野球か、そんなことばかり考えていて、のびのび野球に打ち込むことができますか?」と那須事務局長は疑問を投げかける。

**② 保護者の負担軽減策**  
野球人口の急激な減少の主要因として「保護者負担」がキーワードとされた。これは専業主婦や専業主夫が減少するなかで、地方大会の準々決勝以下、全国大会の2回戦以下の試合において審判の介入導入による審判不足を解消するため、審判員4人を編成する。また、審判員1人につき試合のO・D程度を削減し、O・Dの削減費用を支払うことにより、代行審判も活用される。5月に東京大田スタジアムで行われる野村敬司「ポニーフェスタ」の際に、選手たちへの審判講習会も開催する予定だ。

## ① 各種給付型奨学金、野球用品助成制度の導入

中学球児たちを経済面から支援しようと、3種類の給付型奨学金制度の導入が予定されている。①「夢基金」は、PONYのユニフォームや用具、シューズ、ヘルメット、グローブなどを支給する。②「目標達成N.P.B」は、NPBやMLBの選手に憧れている選手への奨学金。③「海外留学支援制度」は、海外の大学や専門学校への留学費用の助成。また、大学・独立リーグ挑戦のアシストや海外留学(PONYインターナショナルの連携)も提供される。

## ② 保護者の負担軽減策

野球人口の急激な減少の主要因として「保護者負担」がキーワードとされた。これは専業主婦や専業主夫が減少するなかで、地方大会の準々決勝以下、全国大会の2回戦以下の試合において審判の介入導入による審判不足を解消するため、審判員4人を編成する。また、審判員1人につき試合のO・D程度を削減し、O・Dの削減費用を支払うことにより、代行審判も活用される。5月に東京大田スタジアムで行われる野村敬司「ポニーフェスタ」の際に、選手たちへの審判講習会も開催する予定だ。

## その他の取り組み

少年軟式野球国際交流協会(IBA boys)の事業をサポートすることが決まった。IBABOYSは、IBABOYSの活動を引き受け、ポニーで育った選手たちが、IBABOYSの活動に携われるように支援してまいります。IBABOYSは、U-18女子硬式野球の国際大会、U-15女子軟式野球の国際大会も開催する。社会人野球の札幌ホネッツと女子野球のホネッツティーツを運営するNPD法人北海道ベースボールクラブがIBABOYSのチームを作ることが決まった。同クラブとの連携を強化するなどの取り組みも進められている。

### 日本ポニーベースボール協会「スーパーポニーアクション2020」

## 硬式野球団体初 全年代で投球数制限

**60→75→85球**  
「PONY」には「我々の国家の宝である青少年の成長を守る」という理念が込められている。この理念に基づき2019年10月に「スーパーポニーアクション2020」が発表された。日本の硬式野球団体で初となる全年代での投球数制限(中1→60球、中2→75球、中3→85球)を規定し、同日の連投禁止など、投手の障害予防への積極的な取り組みも打ち出した。これは古島弘三常務理事が提案したものだ。また、強いライナーが投手を直撃する事故の危険性を考慮し、反発係数の低い国際標準バットの導入も進んでいる。さらには、試合中の怒声や罵声に対するイエローカード、たばこの害から選手たちを守るなどの内容が盛り込まれている。